

令和7年6月26日

那覇産業保安監督事務所

## 管内鉱山保安概況

## I. 管内概況

## 1. 稼行鉱山数及び鉱山労働者数

## ① 稼行鉱山数

令和7年3月末現在

金 属	非 金 属	石 灰 石	天 然 ガ ス	計
0(0)	1(1)	78(78)	3(4)	82(83)

( )は前年同期

## ② 鉱山労働者数

各年 3 月末現在

年 別	金 属	非 金 属	石 灰 石	天 然 ガ ス	計
R3 年3月末	0	3	538	13	554
R4 年3月末	0	3	536	13	552
R5 年3月末	0	3	535	13	551
R6 年3月末	0	3	530	19	552
R7 年3月末	0	3	513	20	536

## ③規模別稼行鉱山数

令和7年3月末現在

鉱種別 規模別	金 属	非 金 属	石 灰 石	天 然 ガ ス	計
1～9人	0	1	64	2	67
10～49人	0	0	13	1	14
50～99人	0	0	1	0	1
合 計	0	1	78	3	82

④石灰石鉱山地区別稼行鉱山数等

令和7年3月末現在

地区別		北部	中部	南部	宮古	八重山	その他 離島	合計
規模別	0人～9人	5	4	23	20	4	5	61
	10人～49人	7	0	1	1	7	0	16
	50人以上	1	0	0	0	0	0	1
鉱山数		13	4	24	21	11	5	78
鉱山労働者数		270 (288)	14 (11)	93 (92)	63 (64)	54 (56)	19 (19)	513 (530)

( )は前年同期

全国の石灰石鉱山

- 稼行鉱山数は**224鉱山**（令和6年末時点）  
うち78鉱山（**全国の約1/3**）が**那覇産業保安監督事務所**
- 鉱山労働者数は**6,324名**（令和6年平均※）  
※鉱山労働者数は、月末現在の在籍者数を年間で平均した数値
- 1鉱山あたりの鉱山労働者数は**約28名**

監督部	稼行鉱山数	鉱山労働者数	1鉱山あたり
北海道	12	351	29.25
東北	20	638	31.90
関東	35	1,275	36.43
中部	20	931	46.55
近畿	5	168	33.60
中国	30	996	33.20
四国	8	391	48.88
九州	16	1,054	65.88
那覇	<b>78</b>	520	<b>6.70</b>

II. 石灰石鉱山の災害発生状況

各年12月末現在

年別 (暦年)	鉱山数	鉱山労働 者数(人)	災害 回数	罹災者数			稼働延人員	稼働延時間	損失 日数	度数率	強度率	災害率		粗鉱生産量 (千t)
				死亡	重傷	軽傷						(稼働延100万人当たり)		
H30年	80	595	2	—	1	1	2	1,109,683	97	1.80	0.09	14.72	8,822	
R1年	80	560	1	—	1	—	1	1,055,661	23	0.95	0.02	7.48	7,860	
R2年	83	555	2	—	1	—	1	992,248	32	1.01	0.03	16.31	7,778	
R3年	78	549	1	—	1	—	1	973,315	15	1.03	0.02	8.29	7,295	
R4年	78	541	1	—	—	—	0	950,789	—	—	—	8.50	6,922	
R5年	78	535	1	—	—	1	1	941,550	8	1.06	0.01	8.55	6,584	
R6年	78	506	0	—	—	—	0	927,628	—	—	—	—	6,592	
全国 R5年	225	6,247	20	1	13	3	17	11,523,363	8,444	1.48	0.73	13.87	—	

注1：度数率は、労働者災害発生の頻度を表す数値で、100万時間当たりの罹災者数として表  

$$\text{度数率} = \frac{\text{罹災者数}}{\text{稼働延時間}} \times 1,000,000$$
 示されている。計算式は次のとおり。

注2：強度率は、労働災害による労働日数の損失によって災害の重軽度を表すもので、1,000  

$$\text{強度率} = \frac{\text{損失日数}}{\text{稼働延時間}} \times 1,000$$
 労働時間当たりの労働損失日数で表示されている。計算式は次のとおり。

注3：災害率は、労働災害発生件数の頻度を表す数値で、100万人当たりの災害回数を表す。  

$$\text{災害率} = \frac{\text{災害回数}}{\text{稼働延人員}} \times 1,000,000$$

注4：粗鉱生産量については、概数。

○管内では、非金属鉱山（1鉱山）、天然ガス鉱山（3鉱山）については災害なし。

### III. 鉱害発生状況

#### 1. 鉱害・苦情件数

年 種類別	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
粉じん	2	1	0	1	0	0	0
道路汚染	0	0	1	0	0	1	1
騒音・振動	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	2	0	1	1	1
計	2	1	3	1	1	2	2

#### 2. 鉱害・苦情の特徴

環境法令による数値基準が適用されている鉱山は管内にはない。

環境問題に対する世の中の関心が高まるなか、鉱山は、近接する住宅、農作物や道路への粉じん飛散等の周辺環境へ鉱害防止対策について、一層の努力が求められているところである。

令和6年は、北部地区において、鉱山内からの赤土濁水流出に関する苦情があった。監督事務所は、現場調査を行い、鉱業権者に対して赤土濁水流出防止対策を講じるよう指導した。また、北部地区の周辺住民等から道路への粉じん飛散に対する苦情があり、沖縄総合事務局環境資源課と那覇産業保安監督事務所と連名により道路に対する粉じん対策について、北部地区鉱山に対して注意文書を発出した。鉱害問題が発生すると、地域社会との信頼関係が崩れ、操業にも支障が生じることが多いため、鉱害発生 of 未然防止に万全を図ることが肝要である。

### IV. 検査等実施状況

1. 現地確認によって法令遵守状況の確認を行うとともに、リスクマネジメント自己評価票を用いて、鉱山保安マネジメントシステムの構築とその効果的な活用を確認している。また、現況調査、巡視点検等が保安規程に基づいて実施・記録されているかを検査し、リスクアセスメントの実施・評価・見直し等の指導を行った。

#### 2. 主な指摘事項

##### (1) 保安検査

##### ○ 法令遵守等に関する指摘

- 鉱業権者が講じるべき措置の一部が保安規程に定められていない。
- 鉱業権者が講じるべき措置が保安規程に定められていない。
- 施業案申請時や変更時の現況調査が実施されていない、または記録が不十分。
- リスク評価基準に基づく評価が実施されていない。
- 施業案で定められた「鉱山労働者以外の人に対する危害の防止の基本的対策」が実施されていない。

- 残壁に犬走りがなく、傾斜が基準を超えている。

○ 安全管理に関する指摘

- 重機道や鉱山道路において、転落防止措置が不十分な箇所が認められる。
- 砕石プラントのふるいのモータやベルトコンベアの回転部の保護カバーに腐食が見られる。
- 電気室の床や壁に開口部があり、安全性が損なわれている。
- ベルトコンベアと堆積粉じんと接触が認められる。
- 砕石プラント内及び事務所のボンベについて、転倒防止措置が不十分。

○ 労働者の教育と記録管理に関する指摘

- 鉱山労働者に対する保安教育が実施されていない、または記録が保存されていない。
- 保安活動の実施体制や内容について、始業前ミーティングの概要が記録されていない。
- 保安委員会の議事録が作成及び保存されていない。

○ 設備の維持管理に関する指摘

- 車両系鉱山機械の月次点検及び年次点検の記録が保存されていない。
- 採掘現場及び鉱山道路の巡視点検の記録が保存されていない。

3. 検査実績

検査区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
保安検査	8	0	10	10	8
その他検査					
追跡	0	1	0	0	0
環境粉じん	0	0	0	0	0
粉じん	0	0	0	0	0
残壁	0	0	0	0	0
鉱業廃棄物埋立場	0	0	0	0	0
休廃止鉱山	0	0	0	0	0
鉱害等検査					
作業環境粉じん測定	1	0	1	1	1
39条調査	0	0	2	1	0
その他調査 (保安状況調査等)	0	0	2	0	0
特別検査	0	0	0	0	0
合計	9	1	15	12	9

#### 4.行政措置

令和6年度は、行政措置(注意文書交付)を行っていない。

#### 5.警告文等発出状況

令和6年度は、警告文等の発出は行っておらず、沖縄鉱山保安対策委員会の保安運動を通して管内鉱山に対して、各種注意喚起を行った。

### V.その他

#### 1.鉱山保安表彰

鉱山保安に関し特に成績優秀な鉱山及び鉱山保安の確保に特に功労があった保安優良者(①保安責任者[鉱業権者、保安統括者、保安管理者]、②保安従事者[作業監督者・鉱山労働者]、③保安功労者等)に対し毎年表彰を行っている。

##### 【令和6年度】

##### ○全国表彰(経済産業大臣表彰)

- 1)保安実績優良鉱山      なし
- 2)保安責任者              なし
- 3)保安従事者              なし

##### ○地方表彰(那覇産業保安監督事務所長表彰)

- 1)保安実績優良鉱山      なし
- 2)保安責任者              なし
- 3)保安従事者              なし

#### 2.鉱山保安マネジメントシステムに関する自己評価について

鉱山保安マネジメントシステムについては、その達成度を測るための「自己評価支援システム」の評価を平成25年度からアンケート形式で行っているが、管内におけるその評価結果は、次のように推移している。

		H30FY	R1FY	R2FY	R3FY	R4FY	R5FY	R6FY
(i)	本格導入 鉱山	6	7	7	9	7	9	9
(ii)	導入推進 鉱山	24	21	16	24	16	14	18
(iii)	導入準備 鉱山	57	32	24	17	25	27	23

### 3.保安教育

#### <鉦山保安研修「災害事例検討会」>

毎年開催している那覇産業保安監督事務所が主催する研修は、令和6年度は、鉦山保安研修「災害事例検討会」として実施した。石垣会場(11月5日)、宮古島会場(11月6日)、本島会場(12月2日)の3会場で実施し、総計45鉦山、61名の参加があった。

講師は、中央労働災害防止協会九州安全衛生サービスセンターの土屋幸一氏に依頼し、災害事例検討とリスクアセスメントの考え方について、各グループで討議を行い、グループの代表者が討議結果の発表を行った。研修会参加者からは、研修内容について有意義であったと評価する意見が多く寄せられた。

### 4.保安運動

#### ①沖縄鉦山保安対策委員会

各地区に設置されている保安対策委員会を推進母体として、保安運動の重点目標期間を定め各種保安運動を実施している。

平成27年度までは、保安運動のある月とない月とが混在していたが、運動に緩みが生じる可能性があったことから、平成28年度からは保安意識の更なる向上を図るため、保安運動を毎月設置し実施している。

令和6年度保安運動の実施結果

実施年月日	保安運動名
R6. 4.1 ~ R6. 4.30	保安方針、保安目標、保安計画策定月間
R6. 5.1 ~ R6. 5.31	採掘場の整備強化月間 梅雨期及び台風期の防災態勢強化月間
R6. 6.1 ~ R6. 6.30	火薬類・危険物の危害予防月間
R6. 7.1 ~ R6. 7. 7	全国鉦山保安週間
R6. 8.1 ~ R6. 8.31	鉦山道路整備強化月間
R6. 9.1 ~ R6. 9.30	砕・選鉦場の整備強化月間
R6.10.1 ~ R6.10.31	保護具整備・着用励行月間
R6.11.1 ~ R6.11.30	鉦山保安MS自己評価月間
R6.12.1 ~ R6.12.31	KYT・ヒューマンエラー防止月間
R7. 1.1 ~ R7. 1.31	火災予防月間
R7. 2.1 ~ R7. 2.28	車両系鉦山機械・自動車の点検整備等強化月間
R7. 3.1 ~ R7. 3.31	保安方針、保安目標、保安計画評価月間

#### ②災害事故事例の水平展開

全国で発生した災害の状況(速報及び詳報)について、管内鉦業権者にEメール、郵送で提供した。

【参考】

○鉱山の安全HP（経済産業省本省）

[https://www.meti.go.jp/policy/safety\\_security/industrial\\_safety/sangyo/mine/2017\\_newpage/index.html](https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/mine/2017_newpage/index.html)

○那覇産業保安監督事務所HP

<https://www.safety-naha.meti.go.jp>